

「自分でやりたい！」は、成長のサイン



　子ども達と過ごす中で、「自分でやりたい」という気持ちの強さに驚かされることがあります。
私自身、２歳と５歳の娘がいますが「待ってあげる時間も大切」と分かってはいても、急かしてしまうことがあります。
特に朝の忙しい時間は「こちら（親）がやった方が早い、スムーズに進むだろう」と思い、良かれと思って手を出しがちになります。
上の子が２歳のイヤイヤ期の頃など、そして下の子は今が真っ只中ですが、「違う！自分で！」と言い、最初からやり直しになってしまいます。
結局、見守っていた方が早く終わったかもしれない…と思うこともありました。
そんな経験から『子どものタイミングではなく「時間に間に合わせたい」「予定通りに進めたい」という私自身の都合を優先していた』ことに気付きました。
もしかすると娘達は「一生懸命やっているのに」「自分でやりたいのに、急がせないで」と感じていたのかもしれません。
毎日の生活には時間が限られているため、いつでも子どものペース通りにはなりませんよね。
それでも「早く終わらせる」ことよりも「自分でやってみたかった」という気持ちに寄り添うことを大切にしていきたいと思うようになりました。
　２歳頃はさまざまな言葉が増えると同時に「いや！」「自分で！」という気持ちも強まる時期です。
また【あることに自然に夢中になり、何度も繰り返して行い、あっという間にその物事を吸収していく（獲得していく）】という特徴があります。
これをモンテッソーリは【敏感期】と呼んでいます。
子どもが同じことを何度も繰り返す姿は、大人にとっては非効率に見えるかもしれません。
けれども子どもは繰り返し行うことで、体や指先の使い方を覚え、「できた」という喜びを積み重ねるんですね。
モンテッソーリは、衣服の着脱、靴を履くこと、手を洗うこと、食事など、『子どもが行うことは全て、おしごとです』と言っています。
つまり一見何気ない日常生活の動作も、子どもにとっては大切な学び、成長のサインです。
　私自身、我が子の姿を通してたくさんのことに気づかせてもらっています。
毎日の生活の中でつい急いでしまう時には、意識して子どもの様子を見つめ「今、自分でやってみたいんだな」と待つことを大切にしています。

　皆さんも子育てで「時間がない…」など、日々頭を悩ませることって、あるかと思いますが、
子ども時代はあっという間に過ぎてしまいます。
育つ力を信じ、大人の都合・子どもの都合に上手く折り合いをつけながら、成長を見守りたいですね。
私達大人も一緒に向上していきましょう！　　（早紀）

